鉛フリーの誤解とハイパードレンの安全設計について

■ 鉛フリーとは必ずしも『鉛を一切使ってはいけない』という意味ではありません

「鉛フリー」という言葉が一般に使われるようになってきましたが、その定義は一律ではありません。 重要なのは『排水や使用者が鉛に直接触れるかどうか』であり、構造上完全に密閉され、外部に鉛が溶出しないのであれば、 実用上の問題はありません。

■ ハイパードレンは鉛の利点を活かしつつ、排水接触部は非鉛素材で設計

ハイパードレンは、以下の構造により鉛害を完全に回避し、かつ施工リスクを低減します

部位	材質	特徴
鍔部（下地に密着）	鉛板	柔軟性に優れ、下地にしっかり密着。下地に馴染むことで、ドレン廻りの漏水事故のリスクを低減。 また、防水層の下に入るため水及び人には接触しない。
排水管部	銅管	排水が直接触れる部位には鉛を使わず、鉛の溶出リスクなし。
接合部	はんだ付け	強固で気密性が高く、構造全体の耐久性を確保

■ 結論：本質は『鉛を使わないこと』ではなく『鉛害を出さないこと』

ハイパードレンは、鉛の特性（柔らかさ・密着性）を活かしつつ、排水経路とは完全に切り離す構造により、 環境・安全性に十分配慮した設計となっています。

製品に関するお問い合わせはお気軽にどうぞ。

インスタグラムで施工動画
施工例が見れます

吉翔株式会社

大阪府東大阪市玉串町東3丁目６－２
Tel:072-960-0510　　Fax:072-960-0516
http://www.kisshojapan.co.jp

KISSHO1501